

第6回  
発達が気になる子の  
親支援講座

# ぶきっちょなお子さんの 理解と支援 ～家庭で楽しく取り組むために～

2022年1月20日

児童発達支援センター うめだ・あけぼの学園 副園長

作業療法士 酒井康年

不器用であること

を 理解する

# 確認しておくこと

- 本人たちは、けっしてふざけているわけではない
- 一生懸命に取り組んでいる（ことが多い）
- 努力もする（用意はある）
- まじめにやっている
- そのままで良いと思っているわけではない
- 「よく見る」「よく考える」くらいで、できるようになるくらいなら、ここまで本人も、周囲の人も、困っていない
- **つまり、やりたいのにできない**
- たくさん練習する以外の、技術向上方法を、大人が知らない
- **つまり、できないときには、たくさんやるしか方法がない**

# 子どもたちが困っていること

- やればできる??
  - やってもやってもできない
  - できそうな見通しが無い
  - そもそも何をどうやればよいのか? とりつく島がない
- 繰り返せばできる??
  - 何を繰り返す? 失敗体験の再生産
  - 「自分ならできる」という自己有能感に基づく繰り返しと、「やってもできなかった」という自己否定感が強い中での繰り返し

不器用の背景にあること の  
1つ

そもそも  
私たちのからだは  
私たちが思っていない時にも  
たくさん いろいろ 動いている

すべてをコントロールすることは そもそも無理な話  
からだは 私たちの知らないところで うまいことやってくれている

ニキリンコ・藤家寛子  
自閉っ子、こういう風に  
できてます！  
花風社、2004

# 自閉は身体障害

- すべてがマニュアル操作
- 定型発達の人には想像しにくい
- この身体がふつうだと思っていたので、定型発達の人たちがそれほどラクをしているとは想像していませんでした
- 目がオーバーフローする

# 不器用さと生活

## 不器用さが引き起こす一次的な影響

- ハサミが下手
- 定規が使えない
- チョウチョ結びができない
- 消しゴムが使えない
- プリントを折った時に角が揃わない

## 不器用さはいつ表れるか？

- 運動面の不器用さ
- 運動 . . .

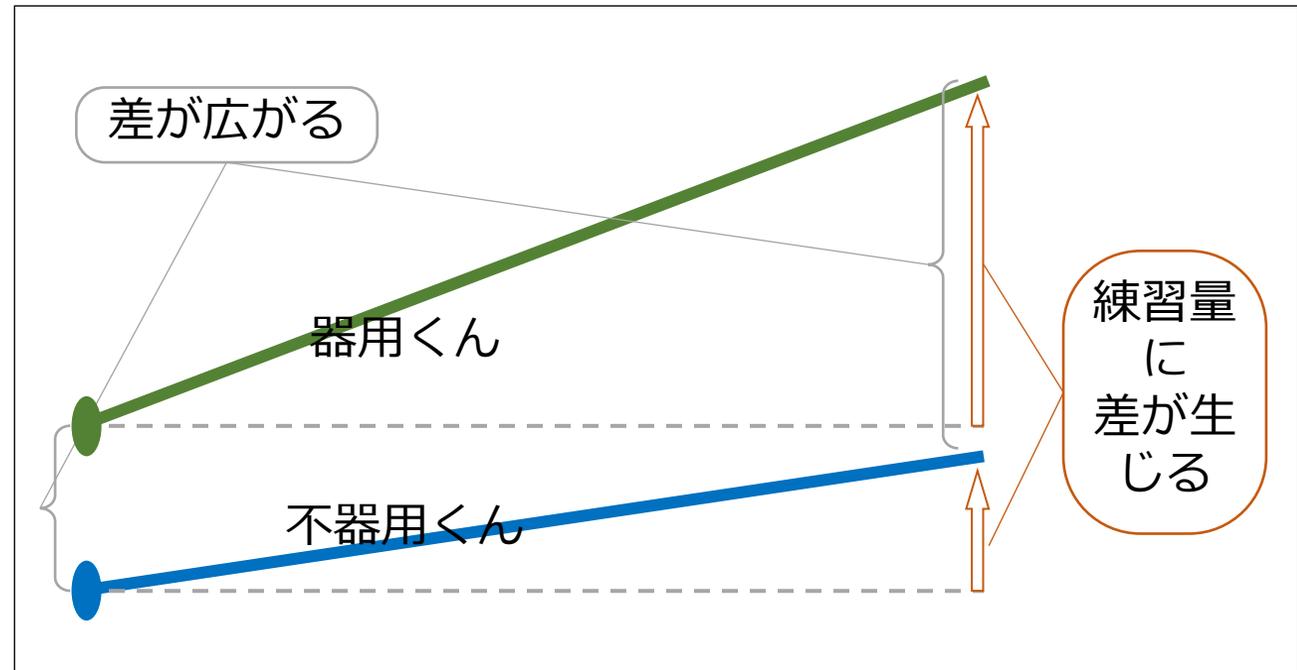
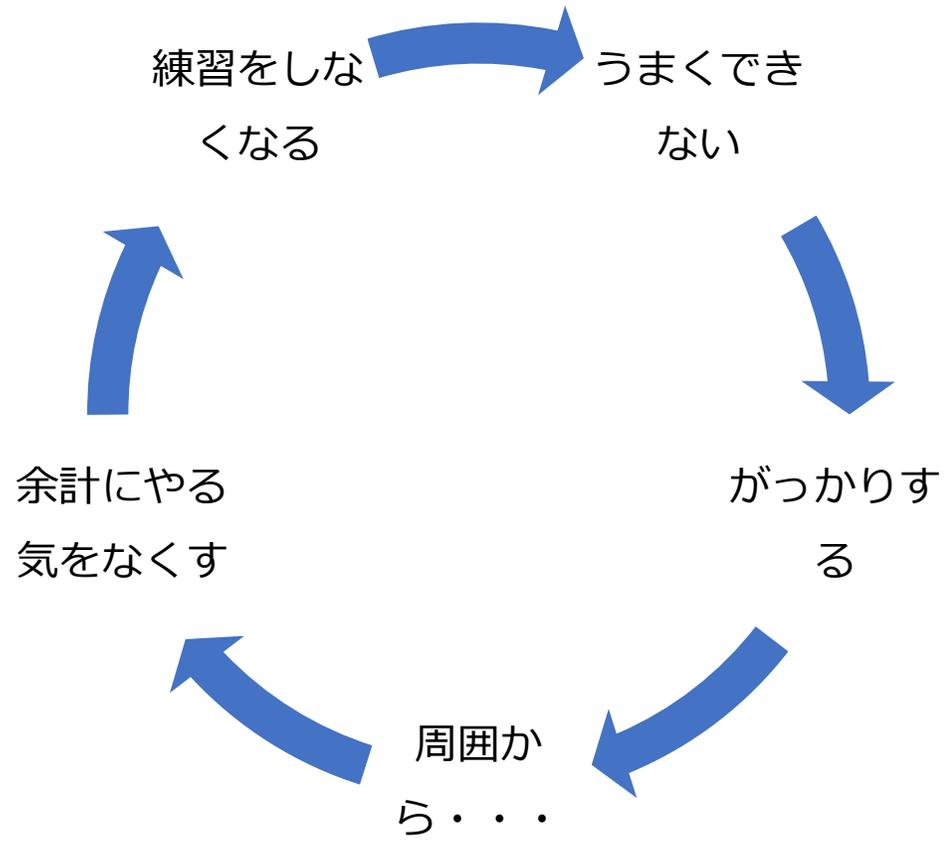
## 不器用さが引き起こす二次的な影響

- 非効率性
  - 思考が整理できない
  - 手順が整理できない
- 成功体験の少なさ
- 努力に見合った成果の少なさ
- 過剰な努力と疲労
- 自己有能感の育ちへ
- 自信の育ちへ

## いつから不器用か？

- 生まれた時から
- 365日

# 不器用から生じる負のスパイラル



# 不器用であること

# を 理解して 支援する

不器用を支援する とは 何か？

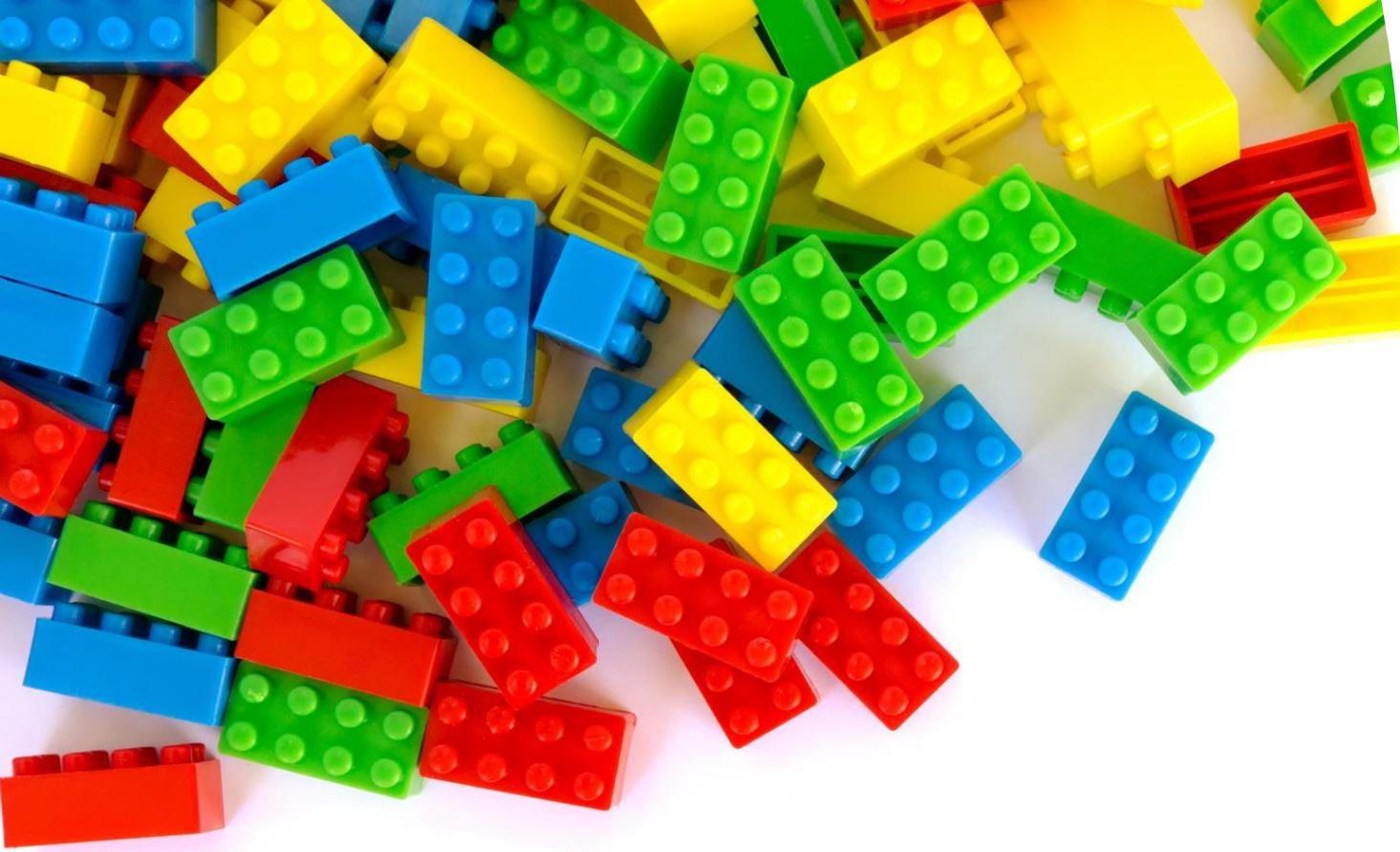
不器用への支援の到達点はどこか？

# 我々大人は何を支援するのか

- 不器用なことを支援する とは？
- 不器用なこと = 不器用な出来事 とは？
- その不器用を体験している本人の何かを支援すること
- 不器用な子の、不器用な運動をトレーニングする
- 不器用な子の、完成しない何かを手伝う
- 不器用な子の、自信のなさをサポートする
- 不器用な子の、それでもトライしようとする心を育む
- 不器用な子の、さまざまな育ちを支援する

下手でもいい！

きれいにならない！



# 子どもたちにとって 身近自立とは 生活動作とは

特に乳幼児期の子どもたちに  
焦点をあてて

# 大人と子どもの違い・・・本当に違う？

## 大人にとって

- 生活動作は、目的を達成するための手段・プロセス
- 身辺自立は、自立した生活を送る上での条件・・・と思っている

## 子どもにとって

- 自分のことを自分でまかなう  
= 自立への一歩
- 受け身の存在から主体的存在へのシンボル
- 大人に一歩近づく
- 誇り高き「大きくなる」ことの象徴の一つ

# 身の回りのことに対して

- 子どもには子どもなりの価値がある

子どもだけか？ 高齢者介護の現場の声から

- 排泄行為は人間の尊厳にかかわるもの。できる限り他人の力を借りず、自力で排泄したいと願うのは普通のこと。
- 「着替えくらい、自分でできます」
- 「自分でかんで味わってのみ込める。それも箸を使って食べられることがやはり幸せだよね」

オレはやっていけるんだ！

ということの 他者への証明 であったり

ということの 自分への確認 であったり

ということを 自分への自己暗示 であったり

# 彼らが誇らしいこと

- パンツをはいたこと
- 立ってズボンがはけること
- 一人できれいに仕上げられたこと
  
- 自ら立っていること
- 自らを律することができること
- 自立 に関わること
- 自律 に関わること

(下條信輔) 「心をもつ者」として扱われる  
ことによって、またそのことだけによって、  
心は発生し成長するのだ。

朝日新聞

折々のことば：458 鷺田清一

2016年7月14日

『まなざしの誕生』 p350

生活動作の身辺自立への挑戦は  
彼らによる 誇り高き 挑戦である  
として扱いたい

# 彼らの誇らしさを妨げない

- 自分でやろうとしている気持ち
  - 自分で決めようとしている気持ち
  - 自分でできると思っている思い
  - 人の手は借りないと思っている思い
- 
- 時に、相反する大人の気になること
    - 効率
    - 時間
    - バランス
    - 仕上がり具合

支援について考える

# 対応策の選択肢

- 本人の力が向上することを期待する
- 環境調整によって、持っている力を引き出す
- そのまま、放っておく (根拠と見通しとリスク管理を伴った見守り)

# 今、必要なことは何か？

- 力をつけること？
- 練習すること？
- できた！と満足すること？
- 時間を短縮すること？
- サポートを受け入れてもらうこと？

今、「子どもにとって」必要なこと

今、「私にとって」必要なこと

# 支援の基本の方向性

- 支援は、できないことを手伝うことではない
- 大きくなりたい、自分でやりたい、自分を自立させたい、そういう子どもの気持ちを支援する
- いかによらせるか ではなく
- いかによりよくやってもらえるか

具体的な支援の  
いくつかの方法

# 自己決定型アプローチ

- 有言実行を引き出す
- 自分で決めたことは、実行に移しやすい

# 褒めて、おだてるアプローチ

- 「やるね、さすが、3歳」
- 「大きくなったもんね」
- 「ピッとできているね」
  
- 褒める時のコツ
  - 具体的に、実際にできていることを実況する
  - 「くつ、もてたねえ」
  - さりげなく、先取り実況 「ああ、きっと次は、下駄箱なんだろうなあ」

# 依頼型・お願い型アプローチ

- 「今日は、先生、腰が痛くてお手伝いできない。一人でやってくれるか」
- 「君が一人でやっている様子、見たいなあ」
- 「お願い、もう一回見せて！！」

# 環境調整によるアプローチ

環境でできることは環境で

# 集中できない

- そこは集中するのにふさわしい場所か？
  - 場面・状況の難易度
- 集中するために、環境で配慮できることは？
  - 目に入るものは整理されているか
  - 耳に入ることは整理されているか
    - 声をかけすぎていないか
  - 行き先が見えすぎていないか

# 運動の難しさ

- 本人の運動状況として、適切な課題か？
- 運動に負荷がかかっているか？
- 大人にとっては何気ないことでも、子どもには大きなエネルギーを割いている場合がある
  - 姿勢を保つ
  - バランスをとる
  - じっとする
  - 空中で保持する
  - コントロールする

そうは言っても  
上手になってもらおうための  
工夫

# 身近自立を考えたときのキーワード

- からだ

- バランス
- すみずみまで
- 感じる

- ものをあつかう

- いろいろな
- かたちのないもの
- あつかいにくいもの

- 空間

- 空間の中で
- 空間に対して

- かんがえる

- 目的を見失わない
- 今何をしているのか迷子にならない
- 試行錯誤

# からだ と あそび

• バランス

頭をさげたり  
目をつぶったり  
重いものをもったり  
物を運んだり  
片足だったり

• すみずみまで

手の先  
足の先  
脚の裏  
背中  
おしり

• かんじる

すべすべ  
つるつる  
違和感

# ものをあつかう と あそび

重い 軽い  
短い 長い  
広い 狭い  
もちやすい  
もちにくい

• いろいろな

• かたちのないもの

• あつかいにくいもの

布  
タオル  
レース  
ひも

まとまらない  
もちにくい  
ひろがってしまう

# 空間 と 遊び

• 空間の中で

ひろい きつい  
遠い 近い  
上 下  
前 後  
左 右

• 空間に対して

入っていく  
出てくる  
のぞいてみる  
きつい ぴったり  
入れない

# かんがえる と 遊び

だまされない  
じゃまされない  
わすれない  
思い出す

• 目的を見失わない

• 今何をしているのか迷子にならない

• 試行錯誤

思い出す  
ヨコにおいておく

あーでもない  
こーでもない  
めげない  
心折れない  
人にきく

# 日常生活動作 と あそび

## 結局

豊かなバリエーションがあれば

どんなものでも

なんでも良い

# 例えば、箸、はさみ、鉛筆 と あそび

- 紙をビリビリに破いた経験
- お菓子の袋を自分であけてゲットした経験
- うまく開かなくて、歯を使ってでも、なんとしてでも開けようとして、それでも開かなくて泣きながらお菓子を食べる経験
- 木の枝を折る経験
- 太い枝は折れない経験
- 紙をパンチで破る経験
- 風船をお尻で割る経験
- 輪ゴムはうまく切れなかったり、糸を切るには工夫が必要だったり、セロハンテープはくっついてしまってもうまく切れなかったり、ガムテープがぐちゃぐちゃになってしまう経験
- 砂場で手で穴を掘り、山を作り、手ですくって水を運び
- トングでモノをはさむ
- 棒でモノをつつつく、地面に絵を描く、カンを転がす、つぶす

# さまざまな経験を積むことによって 身体は育つ

- さまざまな経験
- さまざまな体験      を通じて
  
- 身体は経験値を高めていく
- 脳は、身体についてのデータを蓄積していく
  
- ワンパターンの、モノトーンのデータ
- 豊かなパターンの、カラフルなデータ      どちらが未来に有効か

そもそも  
私たちのからだは  
私たちが思っていない時にも  
たくさん いろいろ 動いている

すべてをコントロールすることは そもそも無理な話  
からだは 私たちの知らないところで うまいことやってくれている

# あえて 箸、はさみ、鉛筆

- フランクフルトの棒の活用
- りんご
- クレヨン
- ろう石
- マニキュア
- ボディペイント
- 枝切り鋏
- 固い紙

# を意識した活動

- ヨーグルト
- プリン
- ハンバーグ
- 砂山崩し
- 窓拭き

まとめ

# 終わりに

- 彼らは、一生、彼らの身体と付き合っていく
- 自分の身体との付き合い方を身につけていく必要がある
- どんなに姿勢が悪くて、不器用であっても、その身体で、一生生きていく
- その至極当たり前のことを大前提にしたときに、学齢期にすべきことを考えていきたい

# 優先順位をたてる

- できないことが、すべて目標になるわけではない
- 気になることが、すべて目標になるわけでもない
- すべてを本人の努力だけで解消することがベストとは言えない
- 時間をかけることのメリットとデメリットを整理して、把握すること
- 全ての情報の中から、優先順位をたてる

下手でもいい！

きれいにならない！

# 成功体験を蓄積し 好循環を引き出す

- 必ず成功体験が必要
- 失敗は成功の母にならない（なるべくなら、本人もみんなもこんなに困らない）
- どれだけの支援をしてでも良いので、成功体験を = できるをデザインする
- 既成事実を積み上げる
- 好循環 = 正のスパイラルを動かす

